

「サマリヤの女性の救い」

主イエスの語られた中に「人の子は失われた者を捜して救うために来たのです」(ルカ19:10)というみことばがある。これは十字架に向かう最後の旅の途中、エリコの町の取税人ザアカイについて言われた言葉である。しかし伝道の初期からすでに、主イエスはサマリヤの町の失われた一人の女性を捜し、見つけ出し、救いに導くという働きをされていたのである。

人々の冷たい視線を気にするくらいなら、誰にも出会いたくないと、彼女は毎日人気のない炎天下の真昼を選んで水を汲み、重い水瓶を汗だくになって、家まで運んでいたのである。

全てを知っておられる主イエスは、この場所の、この時間に、彼女が来ることを知っておられた。優しい主イエスは、彼女を思いやって、弟子たちをみな買い物に遣わされていたのである。それは、神の前にはどうしても隠すことが出来ない彼女の罪を、個人的に、誰もいない所で、明らかにされ、救いに導くためであった。

「夫が5人いたが今一緒にいるのは夫ではない」という。彼女の人生は暗く、失望の連続。苦勞が多かったはずである。そこを生き抜いてきた彼女は、自我が強く、高飛車^{たかぴしゃ}で強情である。

個人伝道をされた主イエスは、話をクルクル変えて、逃げよう逃げようとする彼女に付き合い、自由に言わせながら、急所をぐっと掴み、最後には彼女自身の口から、この方、主イエスこそキリストであると証言するまでに導かれたのである。

永遠の泉である主イエスから汲んだ時から、彼女の恥は、主イエスを証しする術^{すべ}と変わり、サマリヤの人々を主イエスの下に導く証し人へと変えられたのである。

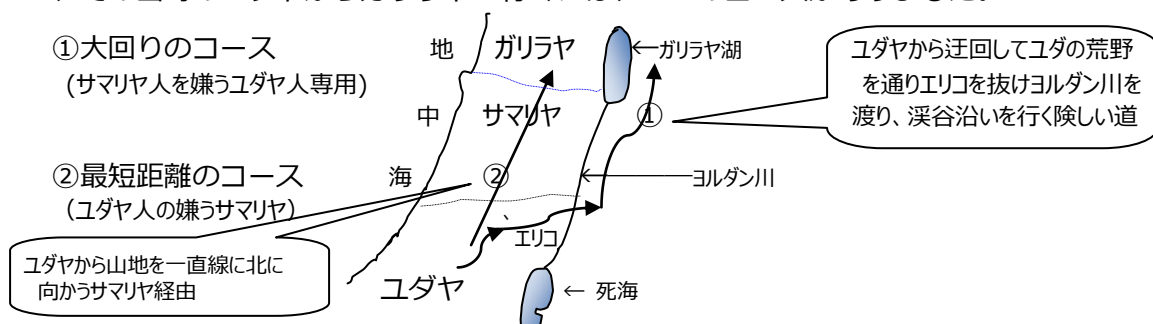
[聖書の学び]

I、サマリヤを通られた主イエス

(ヨハネ4:1～6)

1、9ヶ月ほどユダヤ地域に滞在された主イエスは、パリサイ人たちがすでに神経を尖らせていることを知られ、どうされたのでしょうか。(ヨハネ4:3)

2、その当時のユダヤからガリラヤへ行くには、2つのコースがありました。



③主イエスはこの時、どのコースを行かれましたか。(ヨハネ4:4)

④どうして、そのコースを選ばれたと思いますか。

Ⅱ、主イエスの個人伝道

(ヨハネ4: 7～8)

1、主イエスはユダヤの6時(今の12時頃)、井戸の傍らでサマリヤの女性に話されました。

①水を求める主イエスに、言い換えれば(v9)「ユダヤ人なのに、サマリヤの女の私から水を貰うようなこととして、いいのですか?」と意地悪そうに答えた女性。主イエスはここから、ご自分は何を与えることができると言われたのでしょうか。(ヨハネ4:10～14)

②見当違いをした彼女は、単純に「永遠のいのちの水」。汲んでもなくならない水などあるなら、欲しいと言いました。主イエスが言われた本当の意味はどんな事だと思いますか。
(ヨハネ4:15)

2、次に、主イエスは「永遠のいのちの水」を得るために必要なことを、話されました。

① まず主イエスは彼女に、どうするように言われましたか。(ヨハネ4:16)

② 「夫はいません」と言う彼女に、主イエスは彼女の知られたくない過去を言われました。
(ヨハネ4:18)

③ 驚いた彼女は主イエスを誰だと言いましたか。(ヨハネ4:19)

3、指摘されて、心穏やかではない彼女は、話を宗教問題にすり替えてきました。

① 礼拝の場所… 場所にはとらわれない。(ヨハネ4:21)

② 父なる神はどのように礼拝することを求めておられますか。(ヨハネ4:23,24)

③ 今度はキリスト(メシア)について聞いてきた彼女に、主イエスは何と答えられましたか。
(ヨハネ4:26)

4、サマリヤの女性は水瓶を置いて、どこへ行き、何を証言したのでしょうか。
(ヨハネ4:29)

*** ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。